

品川のあゆみと日本

1_00_00



いる き ばし かいそう
居木橋遺跡の貝層

居木橋遺跡は、品川区大崎にある、約7,000年から5,500年前の、縄文時代※前期の遺跡です。当時は気候が温暖で、海水面は今よりも上昇していました。貝層には、ハマグリ・アサリ・マガキ・ハイガイなどが含まれています。

※縄文時代:約15,700年前から始まる時代で、主に狩猟・採取で食物を得ていました。この時期に使用されていた土器には縄を押し付けたような文様（縄文）があるため、縄文時代といいます。

1_00_01



だせいせきふ
打製石斧

縄文時代前期（約7,000～5,500年前）
平成元年（1989）
居木橋遺跡出土

打製石斧は、石を打ち欠いて斧の形おのを作りました。

1_00_02



ま せい せき ふ
磨製石斧

縄文時代前期（約 7,000～5,500 年前）
平成元年（1989）
居木橋遺跡（大崎）出土
磨製石斧は、石を研いで斧の形を作りました。

1_00_03



ふかばちがた
深鉢形土器（縄文土器）

縄文時代前期（約 7,000～5,500 年前）
平成 2 年（1990）
池田山北遺跡（東五反田）出土

池田山北遺跡は、東京都品川区東五反田にある遺跡です。縄文時代から江戸時代※まで、様々な時代の遺跡があります。

縄文土器は焼き上げる温度が 500℃から 900℃と比較的低く、黒味を帯び茶色をした厚手の土器です。

※江戸時代：17 世紀初期から 1867 年の明治維新まで続いた時代。江戸（現在の東京都）に幕府が置かれたため、この名称と呼ばれます。

1_00_04 	ちゅうこうがた 注 口形土器（縄文土器） 縄文時代前期（約 7,000～5,500 年前） 平成元年（1989） 居木橋遺跡（大崎）出土 深鉢の口にか所注ぎ口を付けた土器 です。煮炊きや水などをためるのに使 ったと考えられます。
1_00_05 	大森貝塚の貝層 縄文時代晩期（約 3,200～2,300 年前） 昭和 59 年（1984） 大森貝塚（大井）出土 発掘で発見された貝層の標本です。ハ マグリ・マガキ・ハイガイ・バイガイ・ ツメタガイなどの貝殻が含まれていま す。貝塚は昔の人たちのゴミ捨て場で、 貝の他にも、土器のかけらや獣の骨が 含まれています。

1_00_06 	ませい 磨製石包丁（複製） やよい 弥生時代*後期（1～3 世紀ごろ） 原資料：大田区立郷土博物館所蔵 昭和初年（1920 年代後半）ごろ、東京都品川区西大井 5 丁目で発見されました。石包丁は、稲の穂先を切り取る際に使用します。 ※弥生時代：紀元前 300 年ごろにはじまった時代で、食物を得る手段が狩猟から農耕に変わっていきました。この時代を代表する土器が東京都文京区弥生で発見されたので、この名前と呼ばれます。
1_00_07 	弥生土器 たかつき 高坏 弥生時代後期（1～3 世紀ごろ） 平成 2 年（1990） 池田山北遺跡（東五反田）出土 弥生土器を焼き上げる温度は約 600℃から 900℃で、赤みを帯び茶色をした薄手の土器です。

1_00_08



(左) ^{は し き}土師器 ^{はち}鉢

奈良時代※ 8 世紀

昭和 58 年 (1983)

大井鹿島遺跡 (大井) 出土

土師器は古墳時代から平安時代まで造られた土器です。素焼きで弥生土器の流れを受け継いでいます。

(右) ^{す え き}須恵器 ^{つき}坏

奈良時代※ 8 世紀

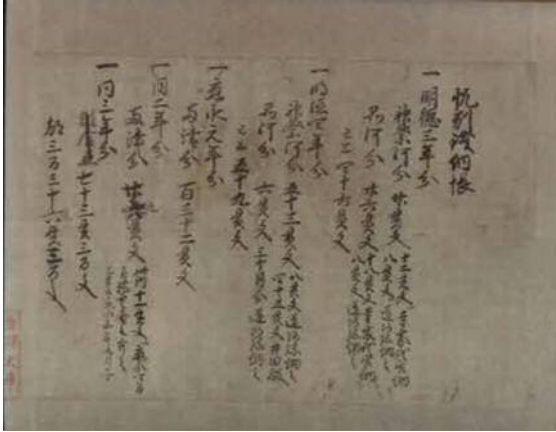
昭和 58 年 (1983)

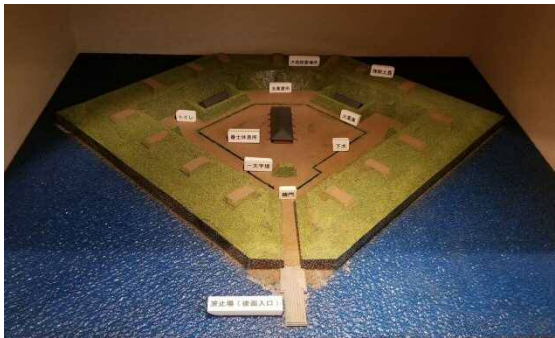
大井鹿島遺跡 (大井) 出土

須恵器は 5 世紀に朝鮮半島の影響を受けて作られ始めた土器で、ロクロを使いかま窯で焼かれました。硬くて灰色をしており、専門の職人によって作られました。

※奈良～平安時代：8 世紀～12 世紀にかけての時代。奈良時代は、奈良 (平城京。現在の奈良県)、平安時代はやましろのくに山背国 (平安京。現在の京都府) にそれぞれ都が置かれたことに由来します。

1_00_09 	えばらぐんめいこうしんがわら 荏原郡名貢進 瓦 奈良時代 8世紀 武蔵国分寺跡（国分寺市）出土 現在の品川を含む地域である荏原郡が、武蔵国分寺※を建てるために寄進したものです。 ※国分寺：奈良時代、仏教の力で国を守ろうとする考えのもと、全国におかれた寺。
1_00_10 	ほうぜん じ いた び 法禅寺板碑 宝徳4年（1452） 法禅寺所蔵、当館寄託 品川区指定文化財 板碑は、死者の冥福を祈るため、板状の石に仏をあらわす文字や供養された人の名、供養年月日などを刻み、作られました。この板碑は、江戸時代末期に品川御台場を築造する際、埋め立て材料の土をとるために御殿山を切り崩した時に発見されたものの一つです。

1_00_11 	むさしのくに^{りょうみなと ほ べちせんのうちよう} 武蔵国神奈川・品川 両 湊 帆別錢納帳 (複製) 品川歴史館 明德 3 年～応永 3 年 (1392～1396) 原資料：^{しょうみょうじ}称名寺所蔵、^{かなざわ}神奈川県立金沢 ^{ぶんこ}文庫保管 国宝 神奈川と品川^{みなと}の湊に入る船から、帆別 錢（入港税）をとりたてた際の記録で す。入港税は、称名寺や鎌倉の寺院の 修造に使われました。
1_00_12 	^{じりょう きしんじょう} 徳川家康寺領寄進状※ (複製) 天正 19 年 (1591) 原資料：^{ちやうとくじ}長徳寺所蔵、当館寄託 品川区指定文化財 徳川家康が長徳寺に土地を寄進したこ とが記された朱印状です。家康が江戸 に入った翌年に出されました。 ※寺領寄進状：寺院への土地寄進の際 に用いられた文書。歴代の将軍は、家 康が出した寺領寄進状にならい、朱印 状を出して寺社を保護しました。

1_00_13 	こうきつ 高札 明和7年（1770） 高札とは、法令などを記した木の札のことです。忠義と孝行を勧めるもの、キリスト教を禁止するもの、放火を禁ずるもの、毒薬の売買を禁止するものなど数種類あります。
1_00_14 	高札場模型 高札場は高札をかけておく場所です。一段高く土を盛って、高札に触れられないように柵をめぐらしてありました。
1_00_15 	ごてんやま 御殿山花見の模型 江戸時代、桜の名所として整備された御殿山は、人々の憩いの場所となりました。
1_00_16 	品川第六台場模型 幕末に、江戸幕府が外国船の江戸湾来航に備えて品川沖に築いた砲台・品川御台場のうち、第六台場を復元した模型です。